

様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】 3 年次（6 セメスター） 9 ～10 月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】 中学校：週 5 回（40 時間）× 3 週間・120 時間 高等学校：週 5 回（40 時間）× 2 週間・80 時間
③	実習校の確保の方法 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】 大学を通して教育委員会や協力校へ依頼を主とする。
④	実習内容 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】（〔 〕 内は高等学校での時間数を示す） 全 120 [80] 時間中、授業参観 60 [40] 時間、授業担当 10 [5] 時間（研究授業を含む）、教材研究 40 [30] 時間、実践指導 10 [5] 時間を目安として、実習校の担当教員や指導教諭による指導助言の下で実施する。 実践指導では、教科ならびに学級担当教員による指導、管理職、主幹教諭、教務主任、研究主任、生徒指導主事等による教育実践に関する指導を受けるとともに、学級経営、生徒指導、学校行事、校務分掌、職員会議・研修等も可能な限り参加し、教職の実践についての理解を深める。
⑤	実習生に対する指導の方法 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】 実習前には、教育実習指導担当教員がテキストや諸資料を活用した講義や模擬授業を実施する。その際に学習指導案の作成の仕方、教材・教具の作り方或使用法等の実際を指導する。 実習中は、学科教員が実習校訪問指導を行う。なお、実習中の学生からの課題や質問等については、教職教育推進センターと学生ゼミ担当教員、教育実習指導担当教員とが連携して、適切に対応できる体制を整えている。 実習後には、教育実習指導担当教員が、事後指導を実施している。実習経験の自己評価や実習レポート作成、グループ討議等を通して、各自の今後の課題を自覚させることで、8 セメスターの「教職実践演習（教諭）」へとつなぐ。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 【中一種免（理科）・高一種免（理科）】 基本的に、実習校の指導教諭が以下の 5 項目について、100 点満点で評価されたものを基準にしている。さらに、「教育実習記録」や実習生の実習中の資料、「教育実習レポート」を総合的に評価して教育実習指導担当教員が最終的に成績評価を行う。 ① 服務状態（常にきまり正しく、自発的に、真面目に勤務しているか） ② 指導性（児童・生徒の指導に対して積極的、意欲的であるか） ③ 研究的態度（教材研究をよく行い、また学校教育全般について意欲的に学びとろうとする態度

があるか)

- ㉔生徒に対する愛情と理解（生徒をよく理解し、常に思いやりのある態度を持って接しているか）
- ㉕実習指導の技術（適切で効果的な学習をすすめているか、また指導の態度はよいか）

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

【中一種免（理科）・高一種免（理科）】

事務局主催による事前指導

- （１）教職課程オリエンテーション（１年次） ２時間
- （２）教育実習ガイダンス（２年次） ２時間
- （３）人権に関する特別講義（３年次） ２時間

教員による教育実習のための学習指導（３年次 授業「教育実習指導（理科）」）

- （１）教育実習の意義・心得 ６時間
- （２）教育実習の内容 10 時間
- （３）模擬授業 10 時間
- （４）実地指導（実習時） ３時間
- （５）事後指導 １時間

② 内容（具体的な指導項目）

【中一種免（理科）・高一種免（理科）】

事務局主催による事前指導

- （１）教職課程オリエンテーション
教職課程の履修方法・教育実習の流れについて説明
- （２）教育実習ガイダンス
教員による教育実習における心構え等の指導、実習手続き事務説明
- （３）人権に関する特別講義
実習参加前、教員による講義

教員による教育実習のための学習（授業「教育実習指導（理科）」）

（１）実習前の指導

- ①教育実習の意義と目的 ②教育実習校の理解 ③礼儀・態度・服装 ④通勤方法 ⑤携行品
- ⑥学校行事参加 ⑦クラブ活動の参加 ⑧指導教員と実習生のコミュニケーション ⑨生徒・保護者との人間関係 ⑩個人情報の保護（SNS、デジタルデータの扱いを含む） ⑪問題発生時の対処法 ⑫教育実習簿の取り扱い方 ⑬実習記録簿の記入・作成 ⑭授業観察の方法 ⑮学習指導案の作成方法 ⑯板書方法 ⑰教材・教具の活用法と留意事項 ⑱模擬授業 ⑲言葉づかい

（２）実習後の指導

- ①礼状の書き方 ②実習省察（克服課題の明示と対策方略の確認） ③実習生相互による経験の共有

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

・委員会等の名称

- a. 教務委員会
- b. 教員養成カリキュラム委員会

・委員会等の構成員（役職・人数など）

a. 教務委員会

- ・教務部長 1名
 - ・教務副部長 2名
 - ・大学および短期大学部の各学科・専攻・コースの教員 15名
 - ・大学院各研究科の教員 2名
 - ・教務課長 1名
 - ・教務課教育課程編成担当職員 2名
- 計 23 名

b. 教員養成カリキュラム委員会

- ・教務部長 1名
 - ・教職教育推進センター長 1名
 - ・各学科・専攻・コースの教員 12名
 - ・教務副部長 2名
 - ・教務課長 1名
 - ・教職教育推進課長 1名
- 計 18 名

・委員会等の運営方法

a. 教務委員会

教務委員会は委員長が委員会を招集し、議長となり司会進行を行う。また、教務副部長は委員長を補佐し、委員長に事故ある場合は職務を代行する。委員は、学部学科等の代表として当委員会に出席しているため、全学的見地ならびに学部学科等の特性に応じて、委員会で審議された結果を学部教授会で報告し、必要に応じて学部の意見を集約して委員会で報告および審議する。なお、当委員会は定期、不定期を含めて年間 20 回程度開催する。

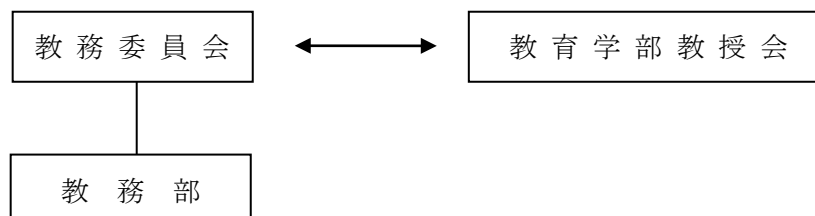
b. 教員養成カリキュラム委員会

教員養成カリキュラム委員会は委員長が委員会を招集し、議長となり司会進行を行う。また、教職教育推進センター長は委員長を補佐し、委員長に事故ある場合は職務を代行する。委員は、教員養成に係る教員の質向上や社会に対する説明責任を果たすため、教員養成に関する情報については公表し、学部学科等の代表として委員会に出席する。また、全学的見地ならびに学部学科等の特性に応じて、委員会で審議された結果を学部教授会で報告し、必要に応じて学部の意見を集約したものを委員会で報告・審議する。なお、当委員会は不定期で年間 5 回程度開催

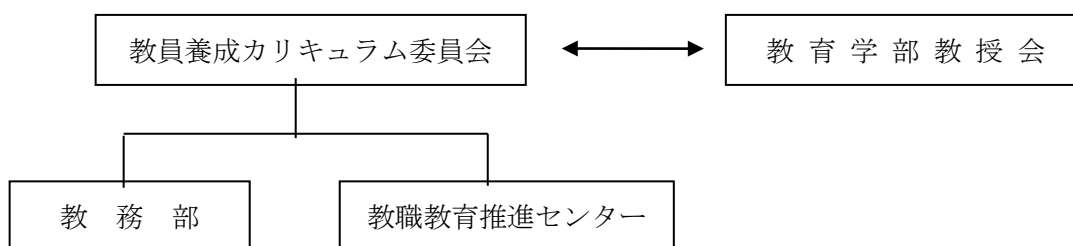
している。

【委員会の組織図】

<教務委員会>



<教員養成カリキュラム委員会>



- ② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

<教育実習>

- ・委員会等の名称
教職教育推進センター
- ・委員会等の構成員（役職・人数など）
センター長 1 名、副センター長 2 名、課長 1 名、教育職員 5 名、事務職員 6 名
- ・委員会等の運営方法
教育実習を所管する事務部局であり、学生の配属校依頼・調整等を実施している。

【委員会の組織図】

上記①に同じ

4 教育実習の受講資格

【中一種免（理科）・高一種免（理科）】

- (1) 卒業に必要となる修得単位数が、基礎教育科目「和の精神Ⅰ」および「和の精神Ⅱ」の2単位および専門教育科目50単位以上を含むこと。
- (2) 専門教育科目「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」のうち、2科目4単位以上を修得していること。
- (3) 専門教育科目「生徒指導論（進路指導を含む）（小・中・高）」「教育方法・技術（情報通信技術の活用含む幼小中高養）」のうち、1科目2単位以上を修得していること。
- (4) 専門教育科目「物理学Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物学Ⅰ」「地学Ⅰ」のうち、1科目2単位以上を修得していること。
- (5) 専門教育科目「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」のうち、1科目1単位以上を修得していること。
- (6) 専門教育科目「中等理科教育法Ⅰ」「中等理科教育法Ⅱ」の単位を修得していること。
- (7) 本学の定める「教育実習」参加のためのガイダンス等にすべて出席していること。
- (8) 「教育実習Ⅰ（理科）」4単位の取得を希望する場合は、「介護等の体験」を修了していること。

5 実習校

教育実習	体験活動	学級数の合計	中学校6校、高等学校2校（34学級）
○	×	学校名 教員数	大阪府立懐風館高等学校（大阪府羽曳野市大黒776）学級数：16 児童数：567人 49人（内訳）教諭42人、助教諭0人、講師6人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人
○	×	学校名 教員数	大阪府立狭山高等学校（大阪府大阪狭山市半田4丁目1510）学級数：18 児童数：713人 38人（内訳）教諭33人、助教諭0人、講師4人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人
○	×	教育委員会名	羽曳野市教育委員会 中学校、義務教育学校：6校

教 育 実 習 成 績 評 価 表

6

令和 年 月 日 送付

実 習 校 名		学 校 長 名		指 導 教 諭 名	
		印		印	
実 習 生 氏 名		実 習 期 間		出 席	日
		年 月 日 () から		欠 席	日
		年 月 日 () まで		遅 刻	回
		実習 教科		早 退	回
項 目	評 価 内 容			※評 価	
				項目別	総合評価
服 務 状 態	常にきまり正しく、自発的に、真面目に勤務しているか。				
指 導 性	児童・生徒の指導に対して積極的、意欲的であるか。				
研 究 的 態 度	教材研究をよく行い、また学校教育全般について意欲的に学びとろうとする態度があるか。				
生徒に対する 愛 情 と 理 解	生徒をよく理解し、常に思いやりのある態度を持って接しているか。				
実習指導の技術	適切で効果的な学習をすすめているか。 また指導の態度はよいか。				
所 見				備 考	

※ 評価は点数でお願いいたします。

100～90＝秀 89～80＝優 79～70＝良 69～60＝可 59以下＝不可

学校長より厳封のうえ、教職教育推進センターに送付お願いいたします。

四 天 王 寺 大 学
四天王寺大学短期大学

令和4年12月7日

四天王寺大学
学長 須原祥二 殿

学校名 大阪府立懐風館高等学校
校長名 竹内 伸一

教育実習承諾書

令和4年12月1日付で依頼のありました、貴大学教育学部教育学科の学生が教育実習（高等学校・理科）を実施することを承諾いたします。

以上

令和4年12月23日

四天王寺大学
学長 須原祥二 殿

学校名 大阪府立狭山高等学校
校長名 山田 達也

教育実習承諾書

令和4年12月1日付で依頼のありました、貴大学教育学部教育学科の学生が教育実習（高等学校・理科）を実施することを承諾いたします。

以上

令和4年12月5日

四天王寺大学
学長 須原祥二 殿

羽曳野市教育委員会
教育長 村田 明彦

教育実習承諾書

令和4年12月1日付で依頼のありました、貴大学教育学部教育学科の学生が教育実習（中学校・理科）を実施することを承諾いたします。